



新型コロナウイルスのもとで"~わたしはこう過ぎてきました・こう過ぎていきます~"

〈vol.9〉

父と友人に会いに…

会員 中村 千之 (48 期)

コロナの感染拡大の中、渋滞や感染の心配から県外への観光やゴルフもなかなか難しい。そんな中、2回ほど父の墓参りに行った。

1回目は薫風の頃、家内に言われ仕方なく、掃除道具一式を持って車で寺に向かった。父の墓は寺の裏山の上にあり、階段を何段も上らなければならない。息を切らしながら階段を上りきり、墓に向かうと案の定、草茫々だった。家内と汗だくで墓の周りの草を取り、墓石を丁寧に磨いてお参りをしたら、不思議といつもより清々しく感じられた。

梅雨明け後、家内に「草が茂っているかもしれない」と言われ、再び寺に向かった。この時は、家内に促されたとはいえ自分が前向きな気持ちで来たことが前回と違った。蚊がぶんぶん飛ぶ中、蚊取り線香をつけて汗だくで草を取り、墓を清めて手を合わせた後の清々しさは前回と同じで、充足した気持ちになった。

梅薫る時期になり、長く行けなかった友人の墓参りに行った。

彼とは中学、高校で仲が良かったが、社会人になってからは互に忙しく、会う機会がなかった。

共通の友人から墓地の場所やお墓の位置を聞いて迷いながらも墓前に立った時は、「ああ、やっと会えた」と思った。長らく墓参りに来なかった詫びを伝え、学生時代の楽しかった思い出を話した。花を供えて線香をあげ、ゆっくり手を合わせると、ずっと気になっていたためか心が安らいだ。

その後、家内の友人のお墓にも向かい、その友人に似合う春らしい淡い色の花を供えて、思い出話をしながら手を合わせた。

コロナでストレスを感じる期間が長引いているが、故人に会いに墓に参ることが気持ちを和ませてくれた。



こちらから読んでね

横

